

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾 4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460

2025 (令和7) 年

仏暦2568年

6月号

(第165号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

如来大悲の恩徳は



正信念仏偈に学ぶ
唯能常称如来号
応報大悲弘誓恩
ただよくつねに如来の号を
称して、大悲弘誓の恩を報
ずべしといへり。

「現代語訳」
ただ常に阿弥陀仏の名号
を称え、本願の大きな慈悲
の恩に報いるがよいと述
べられた。

繰り返しとなりますが、
龍樹菩薩の『十住毘婆沙
論』(現代語訳)の中に、

阿弥陀仏の本願には、「も
し人が、わたしを念じて
名号を称え、自ら帰依す
るなら、速やかに必ず仏
になることが定まった位
に入り、この上ないさと
りを得るであろう」と誓わ
れている。だから常に心に
念じるがよい。

とあり、
不退のくらゐすみやかに
えんとおもはんひとはみな

恭敬の心に執持して
弥陀の名号を称すべし
と親鸞さまも『高僧和讃』に
詠まれました。

そこで、お題の二句は、前
途の「信心正因」のお心を
受けて、だからこそ常に阿弥
陀仏の名号(南無阿弥陀仏)
を称え、本願の広大な慈悲
のご恩に報いなさいというこ
とで「称名報恩」といわれ
るところです。龍樹菩薩は
「だから常に念じるがよい」
と言われ、「称名」の大切
さを示されましたが、親鸞さ
まはそこに「本願の大きな
慈悲の恩に報いるがよい」と
加えられ、「報恩」の大切さ
も示されました。

如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も
ほねをくだきても謝すべし
「報恩」といえば、この和
讃が浮かびます。親鸞さまの
お書きになった和讃の中で最
も有名で、「恩徳讃」という
歌にもなっています。「わた
したちをお救いくださる阿弥
陀仏の大きな慈悲の恩徳と

教え導いてくださる釈尊や
祖師がたの恩徳に、身を粉に
しても骨を砕いてでも、深く
感謝して報いていかなければ
ならない。」と現代語訳され
ています。

このように親鸞さまは「仏
恩報謝」を大切にされました。
浄土真宗の教えの特徴と言っ
てもよいでしょう。そして、
「信心正因 称名報恩」と
いわれ、浄土真宗の教えの基
本になるところです。

ここで龍樹菩薩の句は終
わりになりますが、龍樹菩薩
の大乘仏教の思想は、後の
数多くの仏教宗派の成り立ち
にも影響を与えました。浄土
真宗で普段お勤めするお経本
(日常勤行聖典)の中にあ
る『十二礼』は龍樹菩薩の
著です。意識された「らいは
いのうた」で親しまれていま
す。ここでも「故我頂礼弥
陀尊(阿弥陀ほとけをおがま
なん)」と繰り返され、称
名念仏の大切さをお伝えく
ださっています。



浄土真宗 新 仏事のイロハ

五、礼儀と作法

― お寺に親しむために ―

「御供の向き」

ご仏前に供える「御供」の向きは？

法事の案内をもらい、当日参拝し、仏前に「御供」あるいは「御仏前」の金封や、「御供養」の品物などを供える時、あなたはそれらをどちら向きに置かれますか？ 表書きの文字を仏さまの方に向けて置くか、自分たちの方に向けて置くか、という問いです。

私が法事のお勤めで門徒宅を訪れた経験では、五分五分といったところで、ひよっとすると仏さま向きの方が多いかもありません。もともと、最初に置いた方がこちら向きに置かれれば、次からもこちら向きに置かれますし、仏さまに向いて置かれたなら、次からも仏さまに向いてい

るといった感じで、自信を持って置かれている方は少ないようです。

些細なことなのですが、この向きにも、法事に臨む姿勢が表われるのです。たとえば、神道の儀式で、祭神に供物を捧げる場合、神さまに向けて供えるのが作法です。神を捧げる時は、神前で向きを百八十度変えて供えます。これは、こちらから神さまにお願いをするからでしょう。願いを聞いてもらうために捧げるからです。

しかし、浄土真宗では、前途の「仏花の意味」の項で述べた次の言葉―「私が供えた花はそのまま私に注がれてい



る仏さまのお心を表わしている」と同じことで、仏さまからの恵み、私に向けての大悲のはたらきを、それら「御供」「御供養」のお供え物を通して味わいます。他所からいただいた食べ物などをまずお仏壇にお供えし、手を合わせてから食する習慣があります。その心もここからきています。つまり私から仏さまにお願いするのがお供えではないということ。したがって、文字が私たちの方に向くように供えましょう。

お仏壇のお飾りから始まって、法要・儀式のさまざまなかたち、行為を通して、私たちにかけられている仏さま（阿弥陀仏）の大きなお心をいただいでいくのが、浄土真宗の門徒の心なのです。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より」



年忌法要表

1 周忌	2024 (令和 6) 年	23 回忌	2003 (平成15) 年
3 回忌	2023 (令和 5) 年	25 回忌	2001 (平成13) 年
7 回忌	2019 (令和 1) 年	27 回忌	1999 (平成11) 年
13 回忌	2013 (平成25) 年	33 回忌	1993 (平成 5) 年
17 回忌	2009 (平成21) 年	50 回忌	1976 (昭和51) 年

編集後記

まだ六月というのに、三十度超えの体温に近い異常な日が続いています。また、梅雨もあつたのかわからないほど雨が少なくて、季節の変化も感じられず、旬を感じる食べ物も少なくなってきました。いずれにおいても、さらに有難みを感じながら過ごしたいものです。

